

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：53301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K16781

研究課題名（和文）大楽寺（富山県）所蔵資料の調査

研究課題名（英文）A study of collection of Japanese classics owned by Dairakuji Temple

## 研究代表者

山崎 梓（土谷梓）（YAMAZAKI, Azusa）

石川工業高等専門学校・一般教育科・講師

研究者番号：00465915

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：長恩山大楽寺（富山県射水市）は、近世後期から明治初期にかけて当該地域における学びの場であったことに由来し、現在までに代々伝来する蔵書、現住職がご尊父より受け継がれた蔵書、現住職が蒐集された蔵書を併せて2000点余りの古典籍を有している。その種類は経典をはじめとして和算・歴史・医学および薬事・地図・外交・文学など多岐にわたる。

本研究ではこれらの蔵書のうち未調査資料およそ500点について書誌調査を実施し、目録化して図書館・資料館等の関連各所に配布することで資料の所在を明らかにした。これは北陸で戯作の「実物」を手にとる場を提供し、今後の文学研究発展の一助とするものである。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における書誌調査と目録編集を通して、大楽寺蔵書（凡その経典を除く）は主に江戸中期から明治初期のものが多く、当時の外交に関連する資料や宗教受容に関わる歴史資料、山東京伝の戯作のほかにも喜多川歌麿の艶本など、幅広いジャンルの典籍が含まれていることが明らかになった。これらのうち特に戯作は個人的なコレクションとして所有され公開していない場合が多く、地方で実物を手に取ることは困難である。しかし、本研究で作成した蔵書目録で資料の所在を明らかにすることは、地方在住の研究者にとって有意義な情報発信であるとともに、公開の場を提供することで研究の裾野を広げ、後学の発展に寄与できるのではないかと考えている。

研究成果の概要（英文）：Dairakuji Temple was a place of learning in the area from the late modern period to the early Meiji period, and currently owns a collection of more than 2,000 classic books, including (1) books handed down from generation to generation, (2) books inherited by the current head priest from his father, and (3) books collected by the current head priest. These books cover a wide range of subjects, such as sutras, Japanese mathematics, history, medicine, pharmaceuticals, maps, diplomacy, and literature.

This study conducted a bibliographic survey of approximately 500 items in the collection that had not yet been researched. We created a catalog of these items and distributed it to libraries, archives, and other related institutions to clarify their location. By providing a place to access the “actual objects” of literary works including gesaku (popular literature) particularly in the Hokuriku region, this project will contribute to the development of literary research in the future.

研究分野：日本近世文学

キーワード：書誌 近世文学 戯作

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 研究動向と位置づけ

長恩山大楽寺(富山県射水市)が所蔵する2000点余りの古典籍には、経典、和算、医学などの書籍のほか戯作などの文学作品が含まれており、これは地方の寺院として非常に稀である。戯作は、その100年ほどの歴史を大きく前期戯作と後期戯作に二分することができ、前期戯作は武士階級の作者が中心となり、日常生活に即した事象を教養に基づいて扱うものであった。つまり、楽しむためには読者にも相応の教養やセンスが必要であり、表現は卑俗であっても多分に知的な読み物としての性質を持っていた。また、江戸という場所に即した内容でもあったため、内向きな難解さも持ち合わせているといえる。後期戯作は、寛政の改革などの影響もあり前者とは様相が異なり、教養やセンスはある程度問われるものの、前期戯作に比して内向きな性質は目立たず読者を選ばないことなどが今日までに指摘されてきた。

江戸や京都などの大都市で戯作などの文学作品がどのように扱われてきたかは従来の研究でも言及が多いが、大都市とはある程度分離した地方での読まれ方についてはまだ不明な点が多い。地方をキーワードとした研究は、19世紀は商業出版及び流通網とそれを支える読書人口の増加が全国規模でみられた(鈴木俊幸『江戸の読書熱』2007)こともあり、地方を意識した作品の質の変化についても少々指摘があるが、まとまった形では示されていない。作品の成立に関することが徐々に見えてくる一方で、中央や都市部とは教養レベルの異なる地方でどのような読まれ方をしてきたかについては明確な言論がなされていないのが現状である。大楽寺所蔵の古典籍を調査することが、地方での読まれ方を実証的に考察する機縁になりうると考えた。

#### (2) 本研究着想への経緯

大楽寺は近世後期から明治初期にかけて北陸の浄土宗僧侶の学びの場として重要な役割を持ち、歴代住職からの教授指導を受けた弟子は江戸、大阪、京都などの都市へ送り出され、各地の寺院で住職を務めるなど、学問と深く関わってきた。実際に教科書として使用されていた経典、和算資料のほか、山東京伝の骨董集や合巻などの後期戯作を含んでおり、このような例は北陸では類を見ないものである。これらの古典籍を調査することは当時の学びの様相を明らかにし、地方での学問や文学への関心や地方での文学受容の在り方を解明する鍵になると考えられる。また、戯作が都市部の読者だけを意識したものから、教養を必要としない庶民の文学へと変質していった理由を裏付けることにもつながり、本研究は戯作研究の進展のために必要なものであるといえる。

### 2. 研究の目的

#### (1) 大楽寺が所有する古典籍の目録作成

大楽寺が所有する2000点余りの古典籍のうち、浄土宗総合研究所の斎藤舜健氏による調査を終えている経典を除いた約500点の書籍を対象とした悉皆調査を実施し、目録を作成する。目録の公開によって地方では見ることが困難な戯作の原本の存在を多くの研究者に紹介することで、近世文学研究に有用な資料を提供できると考える。また、未調査資料の全体像を把握したのち蔵書傾向の分析を行う。

#### (2) 大楽寺の教育的営為を例に、地方における文学受容の在り方について考察

大楽寺は浄土宗の総本山である知恩院のご門主を日本海側で唯一輩出しているという点でも、全国的に稀な由緒を持つ寺院であるため、教育の面においても独自の営為があった可能性が考えられ、大楽寺の例をそのまま地方全体のこととして扱うことはできないが、読まれ方の一例としてでも示すことに近世の文学受容を語るうえで意義があると考えられる。

ただし、大楽寺の蔵書は伝来する古典籍以外に近代以降蒐集されたものも点在しているため、慎重に調査し北陸へ運ばれた時期や経緯を可能な限り明らかにする必要がある。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究方法

##### 調査対象

大楽寺所蔵の古典籍のうち、未調査の500点を対象に調査・研究する。現時点では経典以外の古典籍の大半は未整理の状態であるため、基本的な書誌調査(悉皆調査)によって全体を把握する。

##### 調査項目・方法

対象の古典籍に整理番号を付し、資料名(別書名)/巻数(存巻状況)/冊数(員数)/装丁・形態/寸法(縦×横)/編著者名/刊・印・修及び筆写時期(出版地 書肆名ないし筆写者名)/特記事項(蔵書印・伝来・書入等)/分類等について調査記録する。入手の経緯や使用状況等、聞き取りで得られた情報も可能な限り調査に記載する。初出の資料や重要と判断される

資料について所有者の許可を得たうえで適宜写真撮影・翻刻・解題研究を行う。解題研究において必要が生じた場合は国内の研究機関や図書館等にて資料の収集と調査を行う場合もある。以上採集したデータをもとに目録を編集する。

#### 資料の保存への配慮

整理番号を付す際、シール等の貼付けは保存上好ましくないため半紙等典籍に影響の少ないものを使用する。必要に応じて防虫剤などを保存用の箱に入れるなどの処置を施し、貴重な資料の保存を図る。

## (2) 研究計画

### 調査計画

年間に3回程度のペースで現地調査を実施する。現地調査並びにデータ整理を適切かつスムーズに行うため、研究協力者は古典籍調査の経験を有する者、目録作成の経験を有する者、近世文学に関する専門的知識を持つ者、近世の出版に関する知識を持つ者としてほしい。そこで書誌調査経験のある10名を協力者とし、調査隊を結成する。具体的な日程は調査先の寺院のご都合と研究協力者がより多く参加可能な日程を選択して決定する。また、調査先寺院のスケジュールや近県在住でない調査研究者の移動時間なども考慮し、1回の調査日程が極端に長くならないよう4日間までを目安として配慮する。

### 成果の公開

調査の結果得られた書誌データや資料から地方における文学受容について考えられることなどをまとめ、シンポジウムや研究会等で発表する。近世に限らずさまざまな分野の文学研究者から意見を求めることで研究の深化を図る。また、研究代表者をはじめ研究協力者が個別的分析・考察を論文にまとめ、機関誌等への投稿を積極的に行うことで成果を公表する。

研究の最終年度には4年分の調査結果を報告書(目録)としてまとめ、広く公開する。具体的には調査を実施した地域をはじめとした公立図書館や大学・研究機関の図書館、同一テーマに関心を持つ研究者等に配布するための部数を作成する。

## 4. 研究成果

### (1) 大楽寺所蔵資料の目録作成と配布

今回の事業は当初4年間で500点の古典籍を対象とした悉皆調査の後、目録を作成する計画であった。しかし、期間中代表者の休職、新型コロナウイルス感染症の影響によって3年間の延長を余儀なくされ、その間は研究協力者と現地調査が行えないため研究計画に大幅な遅れが生じ、当初の調査計画を変更して調査回数を減少せざるを得ない状況となった。そのため、調査対象としたすべての資料について詳細な書誌データを採集することができず、目録作成要領などを再考し、報告書としてまとめるに至った。具体的には書名/判型/巻編冊数/作者等に関する事項/成立(刊写の別、年、版元など)に関する事項/特記事項(追加事項)/分類に掲載項目を絞り、『大楽寺所蔵資料の調査 大楽寺田村コレクション目録』(2023年3月、私家版、全96頁)として発表した。また、この目録を【表】に示す関係各所に配布し、公開した。貴重な資料の存在を明らかにすることで、今後の文学研究・史学研究の進展に寄与できるものとする。やむを得ず調査計画を見直したことにより、今回の事業では蔵書傾向の分析や善本解題等には至らなかったため今後の課題としたい。

近世地方における文学受容に対するアプローチについては、調査を進める段階において大楽寺に伝来するものではなく、現任職のご尊父と現任職が蒐集されたものであることが明らかとなり(戯作を含む文学関連資料が蒐集された経緯については、作成した目録の「序」に記した)。当初の目的であった地方での戯作の読まれ方について明確にする資料としては残念ながら機能しなかった。また、当初計画していたシンポジウムについても、新型コロナウイルス感染症に関わる諸々の状況を勘案し、実施がかなわなかったため、今回の事業期間内において本研究の成果を発表する場合は上記の目録配布のみとなった。しかし、資料の存在を世に知らせること、実物を手に入る機会や環境を提供することは文学研究上十分に意義を認めるものであると考える。

### (2) 成果を踏まえた展望

今事業で、大楽寺の未調査蔵書約500点の調査を実施し、大部分の詳細な書誌データを採取することができた。しかし、新型コロナによる影響で一部の資料は詳細なデータ採取を終えていないため補完すべきであり、可能な限り早急な実施が望ましい。また、蔵書傾向の分析や善本解題研究について今後取り組むことで、広く公開する情報をより詳細なものにすることができると考えている。なお、大楽寺住職は今後蔵書の一般公開(事前予約制)を計画しており、目録を有効に活用していただけるようである。本研究の成果とその補完は研究上よりよい環境の整備につながるものとする。

【表】目録を配布した機関

機関名	種別
国立国会図書館	図書館
国文学研究資料館	図書館
富山県立図書館	図書館
南砺市立中央図書館	図書館
富山市立図書館	図書館
高岡市中央立図書館	図書館
射水市中央図書館	図書館
小矢部市民図書館	図書館
氷見市立図書館	図書館
滑川市立図書館	図書館
砺波市立砺波図書館	図書館
魚津市立図書館	図書館
黒部市立図書館	図書館
石川県立図書館	図書館
金沢市立玉川図書館	図書館
石川県立歴史博物館	図書館
富山県公文書館	博物館
魚津歴史民俗博物館	博物館
富山市郷土博物館	博物館
射水市新湊博物館	博物館
高志の国文学館	博物館
高岡市立博物館	博物館
高岡市立万葉歴史館	博物館
砺波郷土資料館	博物館
滑川市立博物館	博物館
氷見市立博物館	博物館
国公立大学附属図書館(医・工・商除く) 60箇所	大学附属図書館

他、一部私立大学図書館と研究協力者を含む個人へ配布

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山崎梓	4. 発行年 2023年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 96
3. 書名 大楽寺所蔵資料の調査 大楽寺田村コレクション目録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	一戸 渉  (ICHINOHE Wataru)	慶應義塾大学ス道文庫・教授	
研究協力者	奥野 美友紀  (OKUNO Miyuki)	富山県立大学・非常勤講師	
研究協力者	木越 治  (KIGOSHI Osamu)	金沢大学・名誉教授	
研究協力者	木越 秀子  (KIGOSHI Hideko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	紅林 健志  (KUREBAYASHI Takeshi)	盛岡大学・准教授	
研究協力者	高島 要  (TAKASHIMA Kaname)	石川工業高等専門学校・名誉教授	
研究協力者	高橋 明彦  (TAKAHASHI Akihiko)	金沢美術工芸大学・教授	
研究協力者	竹松 幸香  (TAKEMATSU Yukikou)	前田土佐守家資料館・学芸員	
研究協力者	丸井 貴史  (MARUI Takafumi)	専修大学・准教授	
研究協力者	村戸 弥生  (MURATO Yayoi)	金沢美術工芸大学・非常勤講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関